国立大学医学図書館の実態

Medical Libraries of the National Universities
in Japan : Current Status.

東京大学医学図書館

遠藤 哲 郎*

千葉大学附属図書館医学部分館

久保田 誠 二**

東京医科歯科大学附属図書館

荻原 俊 介***

はじめに

全国医学部長病院長会議は、かねてから医学教育の充実と発展を図るため、国公立のすべての医学部、医科大学について、その実態を明らかにするとともに、今後の課題とあるべき姿を求めてきた。

このたび、その一環として、昭和49年11月に実施された医学図書館に関する調査の結果が「医学部の現状調査に関する報告—第3次—」として公表された。

本稿は、この報告書を基に、調査の取りまとめに当たった当事者が、当事者なりに再編して、その結果のあらましを報告するものである。

調査の概要

この調査の眼目は、医学図書館のありのままの現状を明らかにすることにあった。

実施に先立って、医学図書館の果すべき基本的な役割りを検討し、これをよりどころに調査項目を設定した。

(付1 : 医学図書館の使命)

調査の範囲および調査事項は、次のとおりであり、医学図書館を医学教育・研究との関連において、あらゆる面からとらえようとしている。

(調査範囲)

*Teturo ENDO : Medical Library, University of Tokyo.

**Seizi KUBOTA : Library, School of Medicine, Chiba University.

***Syunsuke KOMOHARA : Tokyo Medical and Dental University Library.

国立26大学医学部の中央的施設としての医学図書館および医学部の各教室図書室等。

(調査事項)

概要調査をはじめ、医学図書館等の施設、設備、要員、蔵書、年間受入図書・雑誌、経費および利用状況等。

(調査時期)

昭和48年度、または昭和49年11月1日現在。

医学図書館の現状

1. 大学の規模および医学図書館の設置形態

調査の対象となった医学部は、そのほとんどが30年以上の歴史を有し、購座数は50を最高に、平均31講座を数える。医学科以外の学科として、東京大学の保健学科、広島大学の薬学科および徳島大学の栄養学科がある。

(図1, 1—2)

医学図書館は、旧帝国大学等若干を除き、制度上分館として設置されており、うち6館が、医学部を含む複数部局をサービスの対象とする、いわゆる複合分館の形態をとっている。

2. 機能面からみた施設面積

図書館を医学教育・研究を支える不可欠な施設としてこれを機能面からとらえた場合、現状はかならずしも満足すべき態勢になく、整備改善が強く望まれる。たとえば、医学教育の特質として挙げられるSmall Group Discussion の場等を備える館は皆無に等しい。(表1, 1—2)

施設面積は、一般に小規模であり、これは画一的な基準(国立学校建物必要面積基準表)により図書館が設け

図1 国立大学医学部（医科大学）の地方分布—昭和51年6月現在—

大学	設 立 年			大 学 の 規 模					医 学 図 書 館 の 設 置 形 態			
	明治	大正	昭和	講 座 数	病院中央 各部門数	分院(室)数	研究施設 部 門 数	動物実験 施 設	部局図書館	複合分館	単一分館	本 館
A		8		32	10	1	4	1	○			
B			23	30	6		2				○	
C		4		34	9	3	5	1		○		
D			45	28	6						○	
E			18	28	8	2	4				○	
F		12		32	6		6				○	
G	10			51(9)	14	1	12	1	○			
H			21	30	7	1						○
I		11		31	8		3	1		○		
J		12		32	13		1	1			○	
K			23	28	11		3				○	
L			22	29	5		1				○	
M			6	33	12	1	4				○	
N			23	29	5				○			
O	32			36	10		4	1	○			
P			6	35	7		5			○		
Q			21	31	7			1			○	
R			23	29	6		7				○	
S		11		33	9		6				○	
T			27	37(7)	6					○		
U			24	30	6						○	
V			23	38(7)	9			1		○		
W		8		33	9		9	1		○		
X		12		32	7		8				○	
Y		11		32	9		4				○	
Z			22	31	5	1	2	1			○	

注) ()内は、医学科以外の講座数を内数で示す。

図1-2

られたことによるものと考えられる。

図書館の施設計画に関しては、別に「大学図書館施設計画要項（昭和44年）」があり、施設の整備改善の方策についての優れた指針となるものであるが、現実には現行基準の制約によって、その趣旨が、十分に生かされていない傾向がみられる。

なお、医学図書館は、現行基準において算定外とする多数の医員、研修医、研究生、附属学校生徒等を擁しており、これらをサービスの対象外として無視することはできない。

2) 収容可能冊数

医学研究は、過去の膨大な経験の集積のうに成り立つものであり、長期間にわたる文献の収集が不可欠である。これらの文献を収容する書庫の収容可能冊数は、現在、収容冊数をやや上まわってはいるものの、医学図書館が管理する教室図書を含めた全蔵書と関連して考えるとき、中央的施設として収容能力が不十分なことは明らかである。（表2）

3) 閲覧座席数

閲覧座席数は、最低30席から最高227席まであり、平均108席となっている。これを利用対象者数（事務系職員等を除く）に対する座席数の割合（閲覧座席数比）でみると、2.8%～16.6%の間に分布し、各大学が、その規模に応じて閲覧座席が確保されているとは考えられない。

のちに示す医学図書館の利用傾向と考え合わせ、特に学部学生に対する適正な閲覧座席の確保が検討されてしかるべきであろう。（表3）

3. 職員

職員数は、定員外を含め平均12名である。大学図書館における所要人員の算定方法については、種々の調査が試みられているが、いずれも医学図書館に当てはめることができないので、有りのままの現状を、構成、業務、雇用等の角度からとらえ、そのあらましを図示するととどめる。（図2）

4. 経費

医学図書館経費の現状は、図3のとおりである。

運営費および図書購入費それぞれの支出割合は図4、5、6、7および表4のとおりである。

表1 図書館施設設置の機能別面積

区分 大学名	総面積	機能 別 面 積 (㎡)																		IV その他	V 共通 部分
		I. 教育, 研究関係エリア						II. サービス関係エリア						III. 管理関係エリア							
		図	書	史	復	視	電	集	七	計	口	L	休	計	車	公	作	倉	機		
A	2,679.8	493	716.5	148.5	50.8					1,408.8					202.5	624.7		54.0		881.2	
B	1,011	255	312		31.5	51				649.5					96		48			144	
C																					
D	1,019	352.9	477							829.4	15.7			15.7	45.0				4.4	49.4	
E	907	184	266							450			42	42	186					186	
F	1,128 (160)	280	331 (160)		27					638 (160)	113			113	190		18	9	54	271	
G	5,226.2	777.6	1,131.8	164.3	70.8					2,668.6	127.6	14.1		141.7	297.2	169.4	33.7	50.3	306.6	857.2	
H	1,867	339.1	731.3		5					1,075.4			118.4	118.4	302			40.1		342.1	
I	925.3	203.3	337.2		23.2					563.7					122.5		14.8			137.3	
J	1,838	360	1,056		55				64	1,535					109				109		
K	758.6	213.4	356		32.4					601.8					64.8				64.8		
L	646	207	256		0					463					78				78		
M	3,134.9	522.7	582.1	96.5	40.2	6.1			49.2	1,296.8	49.3	13.2	41.7	104.2	163.3	31.2	30.2	41.3	178.7	444.7	
N	1,268.8	564	258.9		23.9					846.8			34	34	74.3	14	8.8	7.5		104.6	
O	2,247.8	420.6	864.4		0				51.8	1,336.8					156.7				156.7		
P	2,389	417	1,277		18	66				1,778					214	107	9		90	420	
Q	1,433.7	330.4	350.3		7	10			70	767.7		14.4	20.3	34.7	194.2			10.8		205	
R	1,241	323.2	412.8		45.4					781.4			57	57	199.1			5.4	23.7	282	
S	2,925.6 (528)	508.8	777.6 (528)		54			243		1,583.4 (528)	437.4			437.4	253.2	64.8			54	372	
T	787.8	192	316.8		61					569.8					96					96	
U	698.8	110.9	448		0					558.9					56.8			15		71.8	
V	1,541.5	469.2	662.4		38					1,169.6		22.8		22.8	101.7	43.4	31	12.4	24.8	213.3	
W	2,801.1 (340.5)	626.8	1,260 (340.5)		65.3	53.3	7.1			2,012.5 (340.5)			17	17	240.5	58.5	22.8			321.8	
X	1,451.1	351.1	716	45	66				75.1	1,253.2					52.6					52.6	
Y	1,033	286.0	479		21.6					786.6					84				84		
Z	394.7	155.3	155.4		0					310.7					62		22			84	

表 1-2

注 機能別面積区分略号

機 能 区 分	略号	摘 要
I 教育、関係エリア		
閱 覧 室	⑩	室名にこだわらず資料を配置し、閲覧に供している部分(除書庫)とする。
書 庫	⑪	図書館外に保存書庫等ある場合は()に示し、外数とする。
史(資)料室	⑫	展示室、研究室を含む。
複写印刷室	⑬	写真撮影室、暗室を含む。
視 聴 覚 室	⑭	
電算機関係室	⑮	
集 会 室	⑯	講演会、シンポジウム等に使用する収容人員100名以上の室とする。
ゼミナール室	⑰	
II サービス関係エリア		
ロ ビ ー	⑱	資料を配置し、閲覧に供している部分は閲覧室に入れる。
ロッカー室	⑲	
喫煙、休憩室	⑳	
III 管理関係エリア		
事務関係室	㉑	館長室、室直室、職員休息室を含む。
会 議 室	㉒	会議準備室等の附属室を含む。
作 業 室	㉓	荷解室、製本(準備)室等を含む。
倉 庫	㉔	
機 械 室	㉕	変電室、冷暖房機械室、エレベーター、リフト機械室。
IV そ の 他	㉖	学会、同窓会等の外廓団体および喫茶室等。
V 共 通 部分 (廊下、階段、便所等)	㉗	ホール、テラス等を含む。

医学図書館経費全体の中で、運営費の占める割合は極めて低く、平均38%に過ぎない。しかも、そのうち、35%が賃金に振りむけられており、図書館運営上に必要な他の諸経費を圧迫している。

一方、図書購入費の図書館、教室別支出割合は、前者が42.2%、後者が57.8%と教室が15.6%と高い。(図5)

また、図書購入費の支出割合から、単行書及び雑誌を含めて、洋書が全体の75.3%を占め、(図5)さらに洋書自体では、雑誌が、その57%を占めることがわかる。

(図5)

図書館における図書購入費のうち、単行書の占める割合は、わずか15.2%に過ぎない。(表4) 学生用図書は

おおむね単行書であることから、教育用図書購入の現状は極めて低く、しかも、その比率は平均であって、著しく低率のところを含んでおり、教育用図書の貧困として問題を提起しているといえよう。

医学図書館の経費については、図8でみるとおり、設置形態の如何にかかわらず、その大半を医学部に依存していることがわかる。

5. 蔵 書

蔵書数は、当然のことながら大学の設立年に見合い、単行書と雑誌がほぼ同率で拮抗する。また、和・洋書別では、和書がやや勝り、雑誌では洋雑誌が和雑誌の2倍となっている。図9、10は、各大学における資料の集中

表 2 書庫の収容可能冊数（昭和48年現在）

大 学	収容可能冊数 (A)	現在収容冊数 (B)	教室備付冊数 (C)	全 蔵 書 冊 数 (B)+(C)	全蔵書に対する充足 度 (B+C)-(A) △は不足
A	128,875	85,000	43,201	128,201	674
B	57,294	32,453	31,810	64,263	△ 6,969
E	34,686	33,364	23,079	56,443	△21,757
G	177,300	124,480	40,763	165,243	12,057
H	96,525	43,979	34,350	78,329	18,196
I	50,000	25,000	103,317	128,317	△78,317
J	140,550	103,000	59,221	162,221	△21,671
K	70,000	53,000	45,843	98,843	△28,843
L	33,800	21,439	12,303	33,742	58
M	88,360	59,300	27,801	87,101	10,259
N	32,890	25,000	4,617	29,617	3,273
O	120,000	90,000	85,168	175,168	△55,168
P	200,000	140,000	39,621	179,621	20,379
R	57,200	37,700	42,599	80,299	△23,099
S	66,368	45,564	49,931	95,495	△29,127
T	45,192	38,063	35,627	73,690	△28,498
U	71,000	50,879	9,823	60,702	10,298
V	79,130	48,248	35,212	83,460	△ 4,330
W	252,798	202,503	88,216	290,719	△37,921
X	100,000	50,000	61,930	111,930	△11,930
Y	75,539	43,719	41,471	85,190	△ 9,651
Z	20,000	17,500	13,572	31,072	△11,072

表 3 閲覧座席数

座 席 数	館 数
50以下	2
50～ 60未満	2
60～ 70 "	1
70～ 80 "	2
80～ 90 "	4
90～100 "	4
100～110 "	3
110～120 "	
120～130 "	1
130～140 "	1
140～150 "	2
150～160 "	1
160～170 "	1
170～180 "	
180～190 "	1
190～200 "	
200以上	1

表 4 図書購入支出額（23大学集計）

(千円)								
	総 額	単 行 書			雑 誌			その他
		和	洋	小 計	和	洋	小 計	
図書館	275,453	21,157	20,573	41,730	27,311	205,447	232,758	965
教 室	376,872	64,089	98,880	162,969	42,725	166,064	208,789	5,114
合 計	652,325	85,246	119,453	204,699	70,036	371,511	441,547	6,079

図2 職員の構成

図3 図書館経費支出実績—昭和48年度—

図4 運営費の支出割合（23大学）

図5 図書購入支出割合（23大学集計）

化ないしは分散化の現状を端的に物語っている。

6. 年間受入冊数

年間受入冊数の図書館・教室別割合は、前者が50.6% 後者が49.4%で、ほぼ同率であるが、前項蔵書の場合と同様、資料の集中化、分散化の現状を、ここでも物語っている。（図11，12）

表5に図書館・教室別年間受入種別冊数を示す。

購入分（寄贈を除く）について、図書館・教室別割合をみると、前者が44.8%，後者が55.2%であり、教室受入冊数が、図書館を約10%上廻る。（図13）これは、経費の項で述べたとおり、図書館・教室別図書購入費の割合が42.2%，57.8%であることから当然の結果として受けとれる。

7. 年間受入雑誌タイトル数

図書館・教室別雑誌受入タイトル数は、前者が62.3% 後者が37.7%で、とくに数大学については、図書館集中化の傾向がみられる。（表6，図14，15）これを購入雑誌についてみると、前者が48.2%，後者が51.8%と（図16），わずかながら教室受入誌が多い。図書館においては、寄贈、交換（特に和雑誌）による雑誌の入手が多いことを示している。

8. 開館状況

開館日数は、年間平均 293 日で、平日 1.9 時間、土曜日 2.9 時間の時間外開館を実施している。

図6 図書購入費の支出割合（23大学）

医学部専門課程では、全学科目が必修であり、日中はほとんど授業に拘束されており、又、研修医、附属病院勤務の医師は、昼夜を分たぬ治療活動に従事している。

各館が可能なかぎり、最大限の夜間開館を実施しているのは、この当然の反映ともいえよう。（表7）

9. 利用傾向

医学図書館の利用状況は図17から容易にその傾向を把握することができよう。

学部学生は、主として単行書を利用する。

教官、医員、研究生および大学院学生等は、主として雑誌類を利用する。

この他、他部局および学外者の利用もかなりの量に上り、これは相互利用と相まって、医学図書館が、一学部の枠を超え、内外にわたって文献の利用が活発であることを示している。

10. 相互利用

文献複写枚数の実績から明らかとなり、（図18）相互利用は数大学を除いて、そのほとんどが、他館への貸しに傾いており、自館が必要とした借用をはるかに凌いでいる。

相互利用は、相互に、かつ有効に文献を利用し合うところに意義があり、他の業務に支障をきたしてまで、これに応ずるということであってはなるまい。主体性をもって、これに対処すべきであろう。

11. 医学書の整理

目録・分類作業は、図書整理の基幹となるものであるが、その方式は各館まちまちである。

分類法についてみると、信頼度が高いとされる米国国立医学図書館分類表（NLMC）の採用館は、予想を下まわっている。他の分類表への移行は、分類換作業を伴うなどの理由から、必要と認めながらも実施に踏み切れないものと考えられる。ちなみに、新設医科大学の多くは、NLMCを採用する傾向にある。（表8）

12. 高額な逐次刊行物

各大学が必要とする高額な逐次刊行物は、調査の結果50種に及ぶことがわかった。なかんずく、抄録、索引誌等の二次資料は極めて高額であり、医学教育、研究上不可欠となっている。

高額な逐次刊行物のほとんどは外国出版物であり、購入雑誌全体に占める割合は、点数のうえでは、わずか3.2%に過ぎないにもかかわらず、所要経費は、雑誌購入総所要経費の32%に達している。

なお、図書館についてみると、高額な逐次刊行物の一

図7 図書館・教室別図書購入費の支出割合

図8 医学図書館経費の源泉（24大学集計）

次資料及び二次資料の所要経費は、その44%を占めている。（表9、図19）

13. 各学科目別にみた受入図書冊数及び図書購入費

卒前教育における基本的な学科に対する受入図書・雑誌数及び図書・雑誌購入費の現状をみるために、集計したものを表10に掲げる。

集計するに当たっては、全大学では、その散らばりが大きいので、講座数、利用対象者、年間受入図書、雑誌数を考慮して選んだ特定の6大学をとった。

おわりに

以上、国立大学医学図書館の有りのままの現状について、参考となる事項は、努めて紹介したつもりである。

なお、各項について集計の対象となった大学数が、一定していないことは、調査の事項によって詳しい回答が得られなかった大学があることによる。

この様な細目にあたる調査は、医学図書館にとって初めて行なわれたものであるため、調査を行なう側の準備が不十分であったこと、及び回答を寄せられた各大学側においても、データ不足が目立ち、かならずしも所期の目的が十分に達せられたとは言いが、取りまとめの過程を通じ、数々の貴重な示唆が得られ、又啓発されるが多かった。

本稿が、医学図書館を支える実務者のよき資料となり今後の医学図書館の充実と発展に、いくらかでも役立つことができれば幸いである。

終わりにのぞみ、この調査の実施にあたり、並々ならぬご努力とご協力をいただいた国立大学医学図書館の各

図9 図書館・教室別蔵書（23大学）

図10 図書館・教室蔵書冊数の比率（23大学）

図11 図書館・教室別年間受入冊数の比率（23大学）

表5 図書館・教室別年間受入種別冊数（23大学集計）

区 分	総冊数	単 行 書					雑 誌				
		和		洋		計	和		洋		計
		購 入	その他	購 入	その他		購 入	その他	購 入	その他	
図 書 館	43,406	4,561	1,541	4,116	876	11,094	5,192	3,967	18,498	4,655	32,312
教 室	42,364	12,039	311	10,709	339	23,398	5,912	973	11,185	896	18,966
計	85,770	16,600	1,852	14,825	1,215	34,492	11,104	4,940	29,683	5,551	51,278

図12 図書館・教室別年間受入冊数の比率（23大学）

位に、この紙面をかりて心から感謝の意を表するとともに、調査結果のデータを心よく提供していただいた全国医学部長病院長会議に深謝する。また、本調査の世話校である千葉大学、東京大学及び東京医科歯科大学の各医学部長並びに図書館長から種々のご指導を賜わった。

なお、本稿をまとめるに当って、上記三大学の事務長に負うところが多かった。

図13 購入分年間受入冊数の割合（23大学集計）

表6 図書館・教室別雑誌受入種別タイトル数（23大学集計）

区 分	総 数	雑 誌 タ イ ト ル 数					
		和			洋		
		購 入	そ の 他	計	購 入	そ の 他	計
図 書 館	22,702	3,553	7,149	10,702	8,102	3,898	12,000
教 室	13,773	4,683	874	5,557	7,841	375	8,216
計	36,475	8,236	8,023	16,259	15,943	4,273	20,216

図14 図書館、教室別雑誌タイトル数（23大学）

附1

医学図書館の使命

医学図書館は、大学医学部（医科大学）における医学研究と医学教育に重要かつ基本的な役割を演ずるものであることは、改めていうまでもない。

したがって、医学図書館の備えるべき要件は、以下にあげるような医学研究、医学教育の特異性によって自ら明らかにされるものである。

I 医学図書館で包含すべき諸領域

1. 医学は人間の生命と健康を取り扱うものであるが生命現象は、微生物より人間に至るまで一貫したものである。したがって、生物学領域において発見された知見は、疾患の予防と治療への可能性を探究す

る目的で、直ちに医学研究、医学教育に反映されなければならない。医学図書館においては、広範な生物学関係の最新の文献情報を常に備えなければならない。

2. 疾患それ自身についての研究は、対象が人間自身であるという制約から、可能な範囲において研究された問題は、徒らに反覆されることはない。即ち、医学研究は、過去の膨大な経験の集積の上に成立するものであり、網目の細かい長期間にわたる文献収集が常に不可欠である。教育も当然、この過去の集積を基本とするものである。
3. 疾患を治療する場所は病院であり、病院の機能は直接治療の成否を左右する。即ち、治療技術およびシステムの絶え間ない改善は、医学の日常の課題で

図15 図書館、教室別タイトル数の比率（23大学）

あり，治療医学およびこれに密接な関連のある工学薬学その他の新領域の文献情報の収集が，医学図書館の重大な使命であることはいうまでもない。

- 疾患をもつ患者は，社会において生活する個人である。即ち，医学には社会医学という重要な側面があり，その研究と教育を支えるのは，医学図書館の重要な業務である。

II 医学図書館に要請される諸活動

- 以上のべた多方面にわたる領域の文献情報は，質量ともに，当然のことながら膨大なものであり，この収集は，医学図書館活動の基本である。しかし，これらを単に収集するのみでは，医学図書館の目的の達成は不可能である。収集された文献情報を常に最良の状態に整理し，利用者が望む文献情報を直ちに提供できるシステムを完備しなければならない。
- 医師，医学者は，自らの責任においてその都度，治療活動を行うのであるから，そのためには，当然，必要最低限度の必修科目が教育されなければならない，しかも最低限度の水準は極めて高い。大学医学部（医科大学）の学年が他の学部より2年間も長く，かつ，卒業後においても臨床研修が要望されているのは，その実態を示すものである。医学図書館

図16 図書館、教室別年間受入雑誌タイトルの割合（購入）（23大学集計）

においては，当然，他の学部の専門図書館より密度と水準の高い図書館活動が要請される。また，卒後の医師も一生を通じて研鑽することを要望されるものであるから，これらの医師への文献情報の提供も医学図書館の重要な使命である。

- 医学部学生，研修医は，上記のように多方面にわたる領域における高度の水準の知識を身につけることが要請されており，単なる系統講義の受講や，ま

表7 開 館 状 況

大学名	閲覧方式	開館日数	閲覧室 開架冊数	開 館 時 間		1日当り 夜間要員	
				平 日	土 曜 日	平日	土曜日
A	開架	297	6,300	9:00~19:00(4~9月)	9:00~14:30(4~9月)	2	2
				9:00~18:00(10~3月)	9:00~13:30(10~3月)	2	2
B	一部 開架	295	1,599	8:30~18:00	8:30~15:00	2	2
D	開架	295	5,276	9:00~19:00(2月)	9:00~17:00(2月)	2	2
				9:00~17:00(2月以外の月)	9:00~12:30(2月以外の月)		
E	開架	297	688	8:30~19:00	8:30~17:00	1	1
F	一部 開架	294	9,206	9:00~19:00	9:00~16:00	1	1
G	開架	284	16,128	9:00~20:00	9:00~17:00	3	3
H	開架	294	3,337	9:00~20:00	9:00~17:00	1	1
I	一部 開架	291	6,000	9:00~18:00	9:00~14:00	1	2
J	一部 開架	293	4,300	9:00~18:00	9:00~15:00	1	1
K	開架	292	5,000	9:00~18:00	9:00~13:00	1	1
L	開架	295	6,948	8:30~20:00	8:30~15:00	2	2
M	開架	281	1,377	火・木 9:00~17:00	9:00~12:30	2	
				月・水・金 9:00~19:00			
N	開架	297	7,300	9:00~17:00	9:00~12:30		
O	開架	290	7,531	9:00~19:00	9:00~15:00	2	2
P	開架	286	3,620	9:00~19:00	9:00~17:00	2	2
R	開架	281	3,000	9:00~18:00	9:00~16:00	1	1
S	開架	326	4,870	9:00~20:00	9:00~16:00	2	2
T	開架	295	7,800	火・木 9:00~17:00	9:00~14:30	1	1
				月・水・金 9:00~19:00			
U	開架	293	5,100	8:30~19:00	8:30~15:30	1	1
V	開架	294	8,000	9:00~19:00	9:00~14:00	2	2
				(夏休等の学生休業日) 9:00~17:00	9:00~12:00		
W	開架	275	2,587	9:00~19:00	9:00~15:00	1	1
X	一部 開架	294	6,600	8:30~19:00	8:30~17:00	1	1
Y	一部 開架	291	3,673	8:30~18:00	8:30~17:00	1	1
Z	開架	296	(17,500)	9:00~19:30	9:00~17:00	1	1

注) () は、書庫の配架冊数と同じ。

図17 医学図書館の利用傾向

た準備された実習のみでは、この要請に応えることはできない。医学教育においては、自ら問題を発見し、自ら解答を求める態度が他学部以上に重要であり、そのために医学図書館が場所、機会および学習の方法を提供することが、極めて重要である。

- 卒前教育の後半には、臨床教育が実施され、また研修医、大学附属病院勤務の医師は、昼夜を分たず治療活動にたずさわらなければならない。したがって、医学図書館の利用は、非実験学科および他学部の実験講座のように、昼間のみでは不十分であり、夜間開館が強く要請される。
- 医学文献情報は、通常極めて高価であり、大学の一医学部または一医科大学のみで、上記の要請に完全に対応することは、しばしば極めて困難である。そこで、各大学医学部、医科大学がそれぞれ特色ある文献情報の収集を行い、その上で、それら医学図書館の間の相互利用を有効に行わなければならない。

以上を要約して、医学図書館の活動の特色を列挙すれば以下の通りである。

- 医学および治療医学のみならず、多方面の関連領域を包含する。
 - 膨大な文献情報を収集、整理し、利用者に提供する。
 - 文献情報の密度、水準は、他の専門図書館より極めて高い。
 - 学生、研修医が自ら学習する場所、機会、方法を提供する。
 - 卒後、医師の利用、相互利用が行われる。
 - 開館時間が長い。
- その他、医学図書館に期待される活動には、以下のものがある。
- 教官の研究と調査、医学研究集会、学生と研修医のSGDのための場所、便宜の供与。
 - 器具類を含む医学史料の収集、保管、利用。

図18 相互貸借における文献複写枚数（25大学）

表8 医学書の整理法

1. 分類法

BMLC	DC	NDC	NLMC	独 自	無分類
4	1	15	4	1	1

2. 目録規則

	NCR	ALA L C	AA	独 自
和漢書	25	—	—	1
洋 書	12	5	9	0

3. 目録の種類

著者名	書 名	分 類	資 格	件 名	無
25	23	23	2	2	1

9. 図書館活動の効率を上げるための休息, 食事, レクリエーション等のための附帯的設備の維持, 改善。

医学図書館23巻3号('76)

図19 高額な逐次刊行物の雑誌購入総所要経費に占める割合（23大学集計）

10. 以上の諸活動を可能とする図書館事務機構の整備と設備の維持, 改善。

表9 高額逐次刊行物の購入状況—購入率約50%以上のものを抽出—

一次資料	総点数	図書館	教 室	購入率	1点当り 48年度C P 価格	1点当り 51年度C P 価格
1 Acta Neuropathol	21	10	11	80.7%	63,600	103,600
2 Anal Biochem	23	13	10	88.4	75,000	108,300
3 Ann NY Acad Sci	18	17	1	69.2	298,820	261,000
4 Arch Gesamte Virusforsch	13	11	2	50.0	95,600	108,300
5 Arch Biochem Biophys	24	16	8	92.3	74,400	103,500
6 Beitr Pathol	24	14	10	92.3	64,000	108,800
7 Biochim Biophys Acta	29	18	11	111.5	306,400	752,700
8 Biochem J	33	19	14	126.9	49,500	101,800
9 Brain Res	29	12	17	111.5	127,700	406,900
10 Cell Tissue Res	22	12	10	84.6	303,200	388,800
11 Clin Chim Acta	28	12	16	107.6	50,700	153,600
12 Eur J Biochem	29	19	10	111.5	95,300	258,100
13 Exp Cell Res	26	16	10	100.0	81,900	126,200
14 FEBS Lett	20	8	12	76.9	77,000	210,000
15 Histochem	18	10	8	69.2	56,400	120,900
16 J Chromatogr	18	13	5	69.2	112,000	295,800
17 J Mol Biol	25	15	10	96.1	108,600	189,400
18 Pfluegers Arch	25	15	10	96.1	97,600	153,700
19 Psychopharmacologica	17	9	8	65.3	48,800	146,000
20 Virchows Arch	24	16	8	92.3	106,800	114,000
小 計	466	275	191		2,294,020	4,211,400
二次資料	総点数	図書館	教 室	購入率	1点当り 48年度C P 価格	1点当り 51年度C P 価格
1 Adverse React Titles	21	17	4	80.7	79,700	153,000
2 Ber Physiol Physiol Chem Pharmakol	12	10	2	46.2	175,000	309,200
3 Biol Abstr	24	24	0	92.3	360,800	445,500
4 BA Cumulative Index	12	12	0	46.2	147,600	182,200
5 Biores Index	20	20	0	76.9	88,000	222,700
6 Chem Abstr	25	21	4	96.1	788,400	1,278,000
7 Curr Contents Life Sci	24	15	9	92.3	56,200	79,800
Clin Pract					65,300	70,300
8 Excerpta Med	25	18	7	96.1	1,265,000	2,702,600
9 Zentralbl Bakteriolog	16	13	3	61.5	69,100	142,800
10 Zentral Organ Gesamte Chir	15	13	2	57.6	25,000	136,800
11 医学中央雑誌	46	26	20	176.9	89,040	143,000
小 計	240	189	51		3,209,140	5,865,900
合 計	706	464	242		5,503,160	10,077,300

表10 学 科 目 別 集 計 表（特定6大学平均）

学科目	授 業 時 間数(%)	年 間 受 入 図 書				図 書 購 入 費 (千円)			
		単行書(冊)	雑誌(冊)	計	雑誌 タイトル数	単 行 書	雑 誌	そ の 他	計
解 剖	9.8	87	50	137	31	638	1,189	2	1,829
生 理	5.8	43	29	72	19	293	600		893
生 化	4.4	10	21	31	12	84	742		826
病 理	7.1	47	34	81	25	406	644	1	1,051
細 菌	3.8	12	13	25	13	104	273	1	378
薬 理	3.7	25	10	35	14	182	398		580
法 医	2.1	33	14	47	18	157	327	5	489
衛 生	2.6	13	11	24	27	82	306	12	400
公 衛	2.5	20	28	48	30	84	314	20	418
医 動	1.3	19	7	26	17	106	287	49	442
小 計	43.1	309	217	526	206	2,136	5,080	90	7,306
内 科	14.4	46	88	134	43	325	738		1,063
外 科	7.4	50	126	176	56	406	777		1,183
整 形	2.7	37	30	67	25	280	361	1	642
産 婦	4.2	28	61	89	28	297	387	2	686
眼 科	2.6	39	22	61	26	353	425	2	780
小 児	3.0	24	66	90	32	231	480	3	714
耳 鼻	2.8	19	39	58	26	141	309	2	452
皮 膚	2.7	28	40	68	28	219	494	1	714
泌 尿	2.6	19	33	52	25	173	357	1	531
精 神	2.8	39	31	70	31	306	572	1	879
放 射	2.6	31	16	47	19	334	338	4	676
麻 酔	2.1	24	44	68	22	152	335		487
脳 外	2.0	28	20	48	16	232	346		578
口 腔 外	1.1	15	44	59	18	117	218		335
小 計	53.0	427	660	1,087	395	3,566	6,137	17	9,720
そ の 他	3.9	32	2	34	14	217	135	5	357
合 計	100	768	879	1,647	615	5,919	11,352	112	17,383

注) 1. この集計表は、本調査の調査票から作成した。

2. 授業時間数(%)は、「医学部の現状調査に関する報告(第一次)」の医学部医学科専門課程標準教官数に示された授業時間数の割合によった。

附 2 現状調査の結果から得た平均的な国立大学医学図書館—昭和48年度現在—

大学の規模 講座数 31 部門数 12（研究施設，附属病院中央各部を含む）

教職員，学生数 2,340人

図書館の概要

事 項	総 計	内 訳
施設		
施設面積	1,681 m ²	閲覧室 353 m ² 書庫 594 m ² 事務室 144 m ² その他 303 m ² 共通部分 290 m ²
収容可能冊数	94,986 冊	
閲覧座席数	108 席	
職員		
	12 人	男 女 司書 その他 定員内 外(フル) 外(パート) 6 6 7 5 8 3 1
経費		
図書購入費	28,362 千円	単行書 8,900千円 雑誌 19,198千円 その他 264千円
運営費	7,471 千円	
蔵書		
蔵書	104,122 冊	単行書 和 洋 計 合冊製本雑誌、年刊逐刊 27,502 22,412 49,914 20,206 34,002 54,208
所蔵雑誌	2,824 冊	和雑誌 1,205 洋雑誌 1,619
年間増加冊数		
受入図書	3,729 冊	和 洋 計 和 洋 計 802 697 1,499 698 1,532 2,230
受入雑誌	1,586 冊	和雑誌 707 洋雑誌 879
開館状況		
開館日数	293 日	平日 土曜日
時間外延時間	588 時間	／日平均1.9時間 2.9時間
時間外延要員	401 人	1.5人 1.4人
閲覧室開架冊数	5,990 冊	
利用状況		
利用対象者	2,340 人	学 生 附属学 教 職 員 医 員 研究生 部外者 学 部 大学院 校生徒 教 官 職 員 研修医 423 53 164 422 818 196 264
入館者	30,088 人	9,962 1,875 964 6,827 3,780 6,680
単行書貸出	3,285 冊	1,582 211 322 466 147 557
複写	17,177 枚	9,442 615 440 5,274 — 1,406
雑誌貸出	10,813 冊	231 1,277 — 4,805 1,277 3,223
複写	138,267 枚	5,245 3,926 — 67,742 10,372 50,982
相互利用		
現物貸借	215 冊	
コピー貸借	78 冊	
国外利用借	27,471 枚	
	9,708 枚	
	23 枚	